

伊方原発運転差止

1・14 裁判報告会 資料



2023/12/12 の第 39 回口頭弁論にて

2024 年 1 月 14 日 (日) 13:30 ~

- 13:30 ~ 開会の挨拶
- 13:40 ~ 報告：中川創太弁護士
- 14:20 ~ 補充報告：薦田伸夫弁護団長
発言：今川正章弁護士、高田義之弁護士、東翔弁護士ほか
- 15:00 ~ 会場からの質疑・応答
- 15:25 ~ 15:30 閉会の挨拶

今後の日程

- 福島をくり返さない！伊方原発いらない！3・9集会
・3/9 (土) 13:30 ~ 15:30
・愛媛県男女共同参画センター (松山市山越町)
・講演：「あれから 13 年、福島の実現は？」(仮題)
白石草 (はじめ) (独立メディア OurPlanetTV 代表)
- 福島原発事故 13 年目の集会とデモ
・3/11 (月) 17:30 ~ 19:30
- ・松山市駅前坊っちゃん広場での集会後、愛媛県庁前までデモ (予定)
- 伊方原発をとめる会定期総会
・5/26 (日) 13:30 ~ コムズ5F
- 伊方原発運転差止裁判
第 40 回口頭弁論 (最終弁論)
・6/18 (火) 14:00 ~ 松山地方裁判所

伊方原発運転差止訴訟原告団・伊方原発をとめる会

証人尋問のポイント

弁護団事務局 中川創太

1 証人尋問のスケジュール

2023-4-20 原告本人 渡部寛志 長生博行

5-23 原告申請証人 上岡直見

6-20 原告申請証人 芦田譲 町田洋

8-22 被告申請証人 松崎伸一 森伸一郎

10-10 原告申請証人 巽好幸 被告申請証人 奥村晃史

11-21 被告申請証人 中川俊一

12-12 原告申請証人 野津厚 佐藤暁

書面尋問 原告申請証人 岡村眞

2 争点との関連

(1) 被害論

原告本人 渡部寛志

(2) 地震

原告側 岡村眞 野津厚 芦田譲

被告側 松崎伸一 森伸一郎 奥村晃史

(3) 火山

原告側 町田洋 巽好幸

被告側 ?

(4) シビアアクシデント対策

原告側 佐藤暁

被告側 中川俊一

(5) 避難計画

原告側 上岡直見 渡部寛志 長生博行

被告側 中川俊一

3 証人の証言・反対尋問のポイント

(1) 地震に関する証人

ア 原告側

i 岡村証人 資料1

中央構造線の震源断層の詳細は判明していないこと

南傾斜の逆断層による地震発生のおそれがあること

ii 野津証人 資料2

中央構造線南傾斜の場合、基準地震動・クリフエッジを超える大きな地震が発生するおそれがあること

南海トラフ地震が発生した場合、基準地震動・クリフエッジを超える大きな地震が発生するおそれがあること

iii 芦田証人 資料3

中央構造線の調査のため、地下の3次元探査を実施する必要があること

イ 被告側（反対尋問のポイント）

i 松崎証人 資料4

四国電力が、中央構造線の否定、過小評価を重ねてきたこと

ii 森証人 資料5

森証人が伊方原子力発電所環境安全管理委員会技術専門部会等で行ってきた発言と、陳述書及び法廷証言との間に食い違いがあること

iii 奥村証人 資料6

中央構造線が活断層であるとの知見は、早期に存在していたにもかかわらず、四国電力は無視をしてきたこと

証人が原発推進論者であること

(2) 火山に関する証人

ア 町田証人 資料7

伊方原発敷地に、阿蘇4の火砕流が到達した可能性があり、立地不適であること

イ 巽証人 資料8

阿蘇については、伊方原発の運用期間中に巨大噴火が発生する可能性を否定できないこと

(3) シビアアクシデント対策

ア 佐藤証人 資料9

四国電力によりシビアアクシデント対策には、過酷事故の想定や、人力に頼った対策という点で、問題があること

イ 被告側 中川俊一証人（反対尋問のポイント） 資料10

深層防護意義、5層ある深層防護の各層のいずれか1つでも問題がある場合には、原発が本来持つべき安全性に欠ける状態であること

人力に依拠したシビアアクシデント対策には限界があること

(4) 避難計画

ア 上岡証人 資料11

現状の、伊方原発の避難計画には実効性が無いこと

イ 渡部

福島第1原発事故の際の避難の実態

ウ 長生

伊方原発より西側の佐田岬半島に居住する住民は、避難が困難であること

以上

伊方原発運転差し止め訴訟、仮処分の経過

(途中、四角の枠内は仮処分の経過)

- 2011年12月08日 第1次提訴(原告300名)
弁護団長は薦田伸夫、事務局長中川創太。
原告共同代表は、須藤昭男、近藤誠、遠藤素子、渡部寛志の4氏。本訴訟は被告を四国電力とする原発の運転差し止めを求める民事訴訟である。
- 2012年03月28日 第2次提訴(原告322名) 累計原告数は622名に。
原告共同代表に、古谷和夫、松尾和子、山下正寿、内田淳一、服部敏彦、野口卓の6氏が加わり計10名に。
- 2012年05月29日 第1回 口頭弁論
弁護団陳述 河合弘之(地震列島の原発の危険性と「原子カムラ」の告発)
薦田伸夫(安全神話とそれに追従した過去の司法への批判)
原告の陳述 須藤 昭男(牧師、福島県出身者として故郷の悲しみを訴え)
近藤 誠(八幡浜市在住、3・11後の近隣住民の不安など)
- 2012年09月25日 第2回 口頭弁論
弁護団から 薦田団長の求釈明の陳述等
原告の陳述 渡部寛志(南相馬市から避難の農業従事者としての苦悩の訴え)
松浦秀人(原爆被爆者として原発事故による低線量内部被曝の脅威の訴え)
村田 武(農漁業等の被害の甚大さを学者・研究者の立場から説明)
- 2013年01月29日 第3回 口頭弁論
弁護団から 薦田団長などが準備書面の要旨を陳述。
原告の陳述 野中玲子(福島の避難者支援の経験と子育て中の母親の思いを語った)
山崎秀一(高知県在住の原告として伊方原発への不安感を語った)
安西賢二(僧侶として原発の反倫理性を語り稼働阻止を訴えた)
- 2013年04月30日 第4回 口頭弁論
弁護団から 裁判長の交代に伴う弁論更新手続きの中川弁護士の陳述、
準備書面(7)～(10)の要旨陳述(今川弁護士、薦田弁護士)。
原告の陳述 河野康博(大分でも事故発生の場合の被害は甚大で不安の訴え)
服部敏彦(徳島在住の科学者として原発の危険性を原理的に説得)
- 2013年07月16日 第5回 口頭弁論
弁護団から 準備書面を山口弁護士、求釈明申立書に関わって薦田弁護士の陳述、
原告の陳述 中川悦良(元愛媛県会議員)閉鎖性水域で唯一の伊方の危険性説明等
山下正寿(元高知県高校教諭)ビキニ被爆の海洋汚染隠蔽の調査からの批判
堀内美鈴(松山市在住)福島住民の声を聴く県内集会を開催して
- 2013年08月20日 第3次提訴(原告380名、累計1,002名)
原告共同代表に、松本修次さん、益田紀志雄さん、水野真理子さんの3人を加えて13名に。
- 2013年10月29日 第6回口頭弁論
弁護団から 岡村 眞(断層研究)、都司嘉宣(古文書に見る地震)両意見書による陳述。
原告の陳述 曾根康夫(医師として低線量・内部被曝の危険性を告発)、
望月佳重子(井伏鱒二など文学における被ばく問題からの訴え)
- 2014年03月11日 第7回口頭弁論
弁護団から 藤原意見書(制御棒挿入問題)、長沢啓行意見書(耐震計算の過小評価)。
原告の陳述 アーサー・ビナード(詩人として日本語の詐欺的用法の放射能汚染隠蔽を告発)
大崎義治(大洲市在住、原発周辺住民としての訴え)
- 2014年06月24日 第4次提訴(原告336名)累計原告は1338名。
四国内95の全市町村に原告。原告共同代表に齊間淳子さん(八幡浜市在住)、田村栄子さん(広島市在住)を加えて代表15名に。新たに、坪井直さん(広島被団協)谷口稜輝さん(長崎被災協)肥田舜太郎さん(被爆医師)田中 熙巳さん(日本被団協)辛淑玉さん(シンスゴ)なども原告と

なる。

2014年07月08日 第8回口頭弁論

弁護団から 裁判官交代による弁論更新手続き。準備書面18～31の提出。

内山弁護士の基準地震動に関わる法廷でのプレゼンテーション

原告の陳述 長生博行（伊方町民としての不安と願い）

2014年10月28日 第9回口頭弁論

弁護団から 第4次提訴の併合による訴状と答弁書の陳述、準備書面32～34を陳述

原告の陳述 高橋博子（子育て真っ最中の母として歴史家として被ばく問題を追及）

2015年02月10日 第10回口頭弁論

弁護団から 準備書面35～37の陳述、法廷で映画「日本と原爆」の一部を上映

原告の陳述 益田紀志雄（被爆者であり医師である立場から原発災害を告発）

和田 宰（養護学校の元教員として災害弱者の苦難を訴え）

2015年04月21日 第11回口頭弁論

弁護団から 準備書面38～42の陳述 南・内山両弁護士による法廷でのプレゼンテーション

原告の陳述 斉間淳子（伊方原発が計画された当初から長年にわたって反対を訴えてきた）

2015年07月14日 第12回口頭弁論

弁護団から 準備書面43～47の陳述、四電は準備書面8をそれぞれ陳述

原告の陳述 森瀧春子（ウラン採掘から始まる世界の核ヒバクシャの問題と伊方原発の危険性）

遠藤素子（伊方町の隣の八幡浜市の議員であり元高校教師であった立場から）

2015年09月08日 第13回口頭弁論

弁護団から 準備書面48～51の陳述、四電は準備書面9をそれぞれ陳述

原告の陳述 徳弘嘉孝（人間を痛めつける核エネルギーの撤退を訴えた）

向井公子（福島事故による被ばくを避けて転居した体験から）

2015年11月24日 第14回口頭弁論

弁護団から 準備書面52～55を陳述

原告の陳述 越智勇二（原発事故の公害性を水俣病と比べつつ体験を語った）

渡部伸二（再稼働容認の県議会と原子力防災訓練を住民自治の視点で批判）

2016年01月19日 第15回口頭弁論

弁護団から 準備書面56～57を陳述

原告の陳述 松尾京子（原発問題を考え続けてきた母として県議会や避難訓練を厳しく批判）

三家本美登里（自然環境を擁護しつつ原発建設や再稼働に反対する思いを語った）

2016年03月22日 第16回口頭弁論

弁護団から 準備書面58を陳述予定

原告の陳述 松井勝成（広範な地域の水が汚染される問題及び避難出来ない実態を語った）

渡邊智子（保養プログラムの中で親たちの声を聴き子ども達の状況を示した）

2016年05月31日 第17回口頭弁論

弁護団から 準備書面59～68を陳述

原告の陳述 立川百恵（命を考え常に後始末を考える主婦の目線で原発の危うさを指摘

草薙順一（原発訴訟の司法消極主義を批判し住民を不安の奴隷にせぬよう訴えた）

2016年08月02日 第18回口頭弁論

弁論更新 弁護団から 準備書面69を陳述

原告の陳述 宮本 恵（核発電を止めることが平和への第一歩と伊方原発の運転停止を求めた）

外京ゆり（被曝の危険を延べ過酷事故の恐れがある伊方原発の廃炉を切望した）

2016年05月31日 伊方原発3号炉運転差止仮処分を松山地裁へ申請 債権者（申立人）12名

2016年07月26日 伊方原発3号炉運転差止仮処分 第1回審尋（松山地裁）

2016年09月14日 伊方原発3号炉運転差止仮処分 第2回審尋（松山地裁）

2016年09月27日 伊方原発3号炉運転差止仮処分 第3回審尋（松山地裁）

申立人側からのプレゼンテーション

佐藤暁さん（国際基準等に詳しい専門家）、長沢啓行さん（基準地震動等に詳しい専門家）

甫守一樹弁護士（伊方原発の基準地震動の問題点）、大河陽子弁護士（原発事故の被害の問題）

- 2016年10月12日 伊方原発3号炉運転差止仮処分 第4回審尋（松山地裁）
四国電力側から社員2名のプレゼンテーション
- 2016年11月02日 伊方原発3号炉運転差止仮処分 第5回審尋（松山地裁）
申立人側からのプレゼンテーション 海渡雄一弁護士 岡村眞さん 長沢啓行さん
- 2017年07月21日 伊方原発3号炉運転差止仮処分申立却下決定（松山地裁）
弁護団とめる会連名で「伊方3号炉松山地裁仮処分決定についての声明」
伊方仮処分（松山地裁）決定報告集会で「松山地裁の仮処分却下に対する抗議決議」
- 2017年08月04日 仮処分決定に対する即時抗告
高松高裁あて即時抗告申立書を松山地裁へ提出（申立人10人）
- 2017年11月16日 伊方3号炉運転差止仮処分の抗告審 第1回審尋（高松高裁）
- 2018年02月13日 伊方3号炉運転差止仮処分の抗告審 第2回審尋（高松高裁）
- 2018年06月05日 伊方3号炉運転差止仮処分の抗告審 第3回審尋（高松高裁）
申立人側からのプレゼンテーション 岡村眞さん、長沢啓行さん
- 2018年07月14日 伊方3号炉運転差止仮処分の抗告審 第4回審尋（高松高裁）
- 2018年11月15日 伊方3号炉運転差止仮処分の抗告審 棄却決定（高松高裁）
弁護団、とめる会連名で「伊方3号炉高松高裁即時抗告審決定についての声明」
- 2019年03月11日 第5次提訴（原告86名、累計原告1,424名）
- 2019年07月04日 第19回口頭弁論
弁論更新 弁護団から準備書面70を陳述
原告の陳述 松浦秀人（原発停止を求める国民的願いから裁判所に正義と決断力発揮を訴えた）
内田知子（市民として憲法の役割を知り裁判官に良心と憲法による判断を求めた）
渡部寛志（避難による家族分散の悔しさと原発と共に生きたくない思いを語った）
- 2019年11月28日 第20回口頭弁論
弁護団から 準備書面71を陳述
原告の陳述 立田卓也（地域住民の交流は国富でありこれを壊す原発事故を許せないと訴えた）3
泉 京子（3・11を東京で体験して原告となり原発のない平和な暮らしを求めた）
- 2020年02月27日 第21回口頭弁論
弁護団から 準備書面72～75、火山問題でプレゼンテーション。
原告の陳述 大池ひとみ（乗務した航空機と原発を比較し絶対安全でない原発の廃炉を訴えた）
- 2020年06月09日 第22回口頭弁論
弁護団から 準備書面 76～79、火山問題でプレゼンテーション2回目。
原告の陳述 西川則孝（有機農業の体験から原発楽観論を批判し、伊方原発で事故を許さぬ判決を求めた）
- 2020年10月6日 第23回口頭弁論
弁護団から 準備書面80～82を陳述
原告の陳述 森井正基（障害を生み出す放射線障害を許せないとし、原発をなくすよう求めた）
土居立子（原発拒否の県に育ち、農家の立場から、原発を許さない思いを伝えた）
- 2021年01月26日 第24回口頭弁論
弁護団から 準備書面83, 84を陳述
原告の陳述 加藤廣志（MOX燃料の特別な危険や放射性廃棄物の処理の困難性などを指摘した）
二宮美日（故郷の歴史も文化も奪いかねない原発の危険を訴え、歴史に残る判決を求めた）
- 2021年04月15日 第25回口頭弁論
弁護団から 準備書面85から87を陳述
原告の陳述 浅野修一（避難計画不備と立地自治体の問題性に触れ、原発が稼働しない社会をと訴えた）
- 2021年07月15日 第26回口頭弁論
弁護団から 準備書面89から92を陳述
原告の陳述 葛目 稔（宗教に関わる者として、人の命に関わる原発稼働について運転停止を求めた）

- 2021年11月02日 第27回口頭弁論
 弁護団から 準備書面93から94を陳述
 原告の陳述 河野修三（原発事故時の自治体の避難計画の実効性の無さを解明し運転停止を求めた）
- 2022年02月24日 第28回口頭弁論
 原告の陳述 平谷敏子（身障者の子を持つ母として原発事故時の避難への不安の訴えた）
 宇都宮 理（鳥インフル防疫業務従事の地方公務員として避難の究極の困難性を訴えた）
- 2022年06月21日 第29回口頭弁論
 弁護団から 裁判官の交代による弁論更新に際しての意見を陳述
 原告の陳述 須藤昭男（福島出身の立場から故郷の知人から聞き取った惨状を訴え、運転停止を求めた）
 大野恭子（全国初の原発裁判の歴史に触れつつ、障がい者施設での避難の困難性を訴えた）
- 2022年09月29日 第30回口頭弁論
 弁護団から 準備書面99、同100（98）の補足説明をプレゼン
 原告の陳述 清水あや子（伊方町住民として原発をやめ子どもたちに安全な町を手渡したいと訴えた）
 関根律之（核のゴミを出す原発でなく再エネに転換しての地球温暖化対策を求めた）
- 2022年10月20日 第6次提訴（原告87名、累計原告1515名）
- 2022年12月13日 第31回口頭弁論
 弁護団から 証人の採否につき学者・住民を含む申請者全員の採用の必要性を訴える意見を陳述
 原告の陳述 塩川まゆみ（福島の事故体験から原発事故は最大の人権侵害と訴え、運転停止を求めた）
- 2023年03月14日 第32回口頭弁論
 弁護団から 準備書面103（地震関係）、104（火山関係）陳述
 原告の陳述 北村親雄（妻の遺志を受継ぎ息子と新たに原告となる）
 垂水正和（宗教者として 命を脅かす原発に反対する）
- 2023年04月20日 第33回口頭弁論（証人尋問）
 原告側証人 渡部寛志（福島県南相馬市出身、福島原発事故後、愛媛へ避難、原告）
 長生博行（伊方町生まれ、養蜂業、原告）
- 2023年05月23日 第34回口頭弁論（証人尋問）
 原告側証人 上岡直見（環境経済学者）
- 2023年06月20日 第35回口頭弁論（証人尋問）
 原告側証人 芦田 譲（京都大学名誉教授、物理探査）
 町田 洋（東京都立大名誉教授、地理学者、火山学者）
- 2023年08月22日 第36回口頭弁論（証人尋問）
 被告側証人 松崎伸一（四国電力土木建築部長）
 森伸一郎（愛媛大学教授、地震工学）
- 2023年10月10日 第37回口頭弁論（証人尋問）
 原告側証人 巽 好幸（神戸大学名誉教授 地球科学、マグマ学）
 被告側証人 奥村晃史（広島大学特任教授 地震地質学）
- 2023年11月21日 第38回口頭弁論（証人尋問）
 被告側証人 中川俊一（四国電力原子力本部 伊方発電所 品質保証部長）
- 2023年12月12日 第39回口頭弁論（証人尋問）
 原告側証人 野津 厚（国立研究開発法人「海上・港湾・航空技術研究所」港湾空港技術研究所地震防災研究領域長）
 原告側証人 佐藤 暁（原発コンサルタント）